

C-65 山形県の刺子の研究 (第4報)

産育に關する刺子衣類について

県立米沢女短大 徳永幾久

目的 東北地方には 藩政時代から衣料に恵れないため 各地に特色ある刺子がみられる。山形県の場合も 舊い刺しの庄内野良着、刺し文様のユークな上杉花雑巾があり、刺し造形のよりどころに特色がある。そこで 今般 産育に關連する刺子衣類を収集し得たので、これらを対象として これらが刺し裝飾を造形として組み入れた理由を説明するとともに、例えば 初潮時の刺子腰巻が 母の手によつて作られ 結婚後も婚家にもろこまれ オボギとして赤子を包むというような 女の生にかかわりをもつ刺子の実態を明らかにし、刺し裝飾の始原の意味を考究しようとした。

方法 刺子の収集とそれらの聞きこみ および文献による考察

結果 産育に關連ある刺子は 腰巻 前だれ みみこ ゆとり たらい敷き お(の)お(の)包み お(の)ころりのかけ風呂敷 おぶい紐 などに見られた。特色は、(1)腰巻; 木綿地に赤の居敷当て 亀甲 瓢箪 扇などの吉祥文刺し、端は表に折り返し雑包みの小衾となる。星形 文字などの咬符文の縫いつけ (2)前だれ; 赤木綿の裏付刺し文、裏は表に返り縁取となり雑包みの小衾、(3)産着(みみこ); 袖、身頃に麻葉 桃実 扇 コマの刺し文 背、裏衾に背守り (4)その他 紅染めに亀 牡丹花など長寿 福貴文刺しが多い。以上から産育衣類は 生命の長寿 福貴を願う裝飾文を刺しとどの 赤色の咬符に托すもので、刺し文は赤子の生命の安全加護と母かう子への生命の引継ぎの祈り文であり、裝飾の始原と考えられる まもる きよめるの意味が これにより考察することかできたと思われる。